



マカオ

十二回にわたったサビエル関連の最後に、サビエルの上腕があるマカオにふれたい。

中国南部の珠江。マカオはその河口にある岩の多い島であった。アジアに拠点があほしいポルトガルがこの島を借り受け、埋め立てて中国本土と陸続きのマカオ半島を誕生させた。

河口の三角州の中央が中国南部最大の都市広州、東が香港、西にマカオがあり、サビエルが死去した上川島はマカオから西にわずか百キロのところにある。

比でいうと、教会密度は世界一と言われる。

〈聖パウロ天主堂〉

安いつアーを見つけ八月月上旬に訪れたが、飛行機で香港に行き、そこから船で一時間マカオに着く。

イギリスの植民地だった香港に対しマカオはポルトガルの植民地。香港にイギリスの香りは感じないが、マカオはポルトガルの面影があちこちにある魅力的なところである。

東洋のカトリックの拠点となったマカオは、東京の港区ぐらいの大きさのところに大きな教会が十五、男子修道会が八、女子修道会が三十もあり、面積

が六〇二年から三十五年の年月をかけて建築した聖パウロ大聖堂と、隣接するセミナリオと呼ばれる教育施設のある修道院がある。

実は、これらの建物は日本ともかわりがある。豊臣秀吉が一五八七年に出したキリスト教禁止令で日本を追われてマカオにやって来た宣教師や日本人クリスチャンが、資金や技術面で協力して建設されたという。

そして、日本二十六聖人をはじめ、殉教者の遺骨はマカオに運ば

聖パウロ天主堂跡のファサード(建物正面)



れ、この聖パウロ天主堂に安置された。

ところが一八三五年に火事で焼失し、聖堂正面のファサードと呼ばれる壁だけが残った。これは今、マカオ一番の観光名所となっている。

〈イエズス会禁止〉
中世、西洋ではカトリック教会が宗教だけ

余曲折を経て、教皇クレメンテ十四世によって一七七三年にイエズス会の活動は全面禁止され、修道院などは閉鎖させられたのである。

どんな裏取引があったのだろうか？

忠誠を誓った教皇からの禁止命令でカトリック国ポルトガルのマカオも全面禁止。イエズス会のセミナリオは軍隊の兵舎になった。その禁止令が解除されたのは一八一四年、教皇ピオ七世の時である。

人間の権力闘争、正義や神の名のもとにそれが進められるのだから本当に恐ろしい。

〈ポルトガルワイ

ン〉
教会史のような話になったので、最後にワインで一杯。

ポルトガルと同じようにガイドがワイン工場に連れて行った。そこは工場ではなくポルトガルワインの倉庫。ワインの試飲、上手に売る手口である。ポルトガル巡礼の時、フラックフルトの空港で割れた高級ビンテージワインがあった。

と、後ろから賢い妻が小声で「もう買わないでね」。試飲はしたが、もちろんその言葉に忠実に従ったことは言うまでもない。

(元山口放送取締役ラジオ局長)



飲む宝石と言われるピンテージワイン
(ポルトガルワインの倉庫にて)